

令和5年度 (公共) シラバス

教科名	科目名	学年	学科	単位数	使用教科書
公民	公共	2	理数科	2	『高等学校 公共』(第一学習社)

学習の到達目標	<p>学習を通じて、現代社会の諸課題についての基本的な知識を身につけるとともに、課題の解決のために主体的に考え判断する能力を身につけることを目指す。社会課題に対する見方、考え方はさまざまあり多面的であることを重視し、その複数性の中で生徒が自分で考え対話を通じて、合意形成を目指す、公共的存在としての能力を養うことにとくに重点を置く。</p> <p>これを達成するために、さまざまな社会問題を身近な話題に引き付けて考えるテーマ学習を豊富に設定している。主体的、対話的な授業を通し、生徒が社会参画者であることの自覚を深めることを目標とする。</p>
---------	--

評価の観点		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に応礼し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。	よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としてのあり方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。

期	月	学習項目	学習内容(ねらい)および評価の観点	a b c			評価方法
				a	b	c	
1	4月	第1章 公共の扉 1. 公共と人 ①人は一人では生きられない ②人はどのようにつながるのか ③自由と正義の実現を目指して ④対話から生まれる公共 ⑤日本の公共思想	<ul style="list-style-type: none"> ・青年期が人生において持つ意味を理解する。 ・公共的空間とはどのような空間か自分の体験や具体的な事例に基づき思考する。 ・将来自分が働くことを想定し、自分の労働力をどのように生かすべきか自覚を深める。 ・自由と正義について、国家、市場、人間の本性、歴史などさまざまな観点があることを理解する。 ・自由で公正な社会を実現に向けて主体的に思考する。 ・意見の異なる相手との対話実践でき、相手の意見を受けて自分の考えを述べるができる。 	○		○	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
	5月	第1章 公共の扉 2. 公共と倫理 ①功利主義と義務論 ②水俣病を考える ③地球温暖化問題 ④誰が医療を支えるのか	<ul style="list-style-type: none"> ・多数派の利益と少数派の犠牲という功利主義の問題点について思考し表現している。 ・自立した主体として公害のような社会問題にどのように向き合うべきか自覚を深めている。 ・地球温暖化により、どのような問題が起こっているか、またこれを解決するために行われている国際的な取り組みなどについての知識を習得する。 ・地球温暖化問題について、自分の身の回りの生活と、世界規模の視点の双方の観点から、考えを表現している。 ・日本の医療制度は国民の「支え合い」により成り立っていること、少子高齢化により維持が困難な局面にあることを理解させ、医療制度を維持するために、誰が医療費を負担すべきか検討する。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
	6月	第1章 公共の扉 3. 公共の基本原則 ①生徒会予算をどう分配するか。 ②意見が分かれたときにどう決めるか ③民主政治の歴史 ④日本国憲法の三つの原理 ⑤基本的人権の尊重 ⑥大学入試と男女差別 ⑦なぜ女性医師が日本では少ないのか ⑧表現の自由とヘイトスピーチ	<ul style="list-style-type: none"> ・公正、公平についての考え方が立場の違いによりそれぞれ異なることを理解させる。 ・相手の意見を聞き、複数の選択肢を横断し、最適な解を模索している。 ・意思決定方法にはさまざまな方法があることを学び、民主主義の基本的な仕組みを理解させる。 ・社会契約説、自然権、三権分立など民主政治の重要概念を理解している。 ・国民主権、基本的人権の尊重、平和主義の憲法の原理についての知識を習得している。 ・法の下での平等、自由権、社会権などの基本的人権はすべての人間が持っており、憲法がそれを保障していることを学ぶ。 ・SNSでの誹謗中傷が社会問題になっている事例を取り上げて、自分事として考える。 	○		○	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査

年次	月	学習項目	学習内容(ねらい)および評価の観点	a	b	c	評価方法
1	6	第2章 現代社会の諸課題 1. 法と社会 ①法と社会 ②「忘れられる権利」は認められるべきか	<ul style="list-style-type: none"> ・よりよい社会の実現のために法がどのような機能を果たしているか表現している。 ・インターネットという新しい公共空間において法がどのように適用され、自由と正義の実現を目指しているか学習する。 	○	○		<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
	7	第2章 現代社会の諸課題 2. 契約と消費 ①多様な契約 ②消費者の権利と責任 ③なぜ未成年は自由に契約できないのか	<ul style="list-style-type: none"> ・社会生活を営むうえで、私たちはさまざまな契約を結んでいることを理解させる。契約が法的根拠をもつこと、また契約を取り消すための仕組みについて学習する。 ・よき消費者として、どう行動すべきか自覚を深めている。 ・なぜ未成年者が自由に契約できないのか、意思と合意による契約の仕組みをもとに、説明できる。 	○	○		<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
2	9	第2章 現代社会の諸課題 3. 司法と裁判 ①日本の裁判制度 ②国民の司法参加 ③刑事裁判と民事裁判 ④なぜ疑わしいときは被告人の利益とすべきか 4. 政治参加 ①選挙と政治参加 ②公正な世論の形成 ③日本の若者の投票率はなぜ低いのか	<ul style="list-style-type: none"> ・三権分立において司法権の果たしている役割を理解する。 ・裁判員制度、国民審査、検察審査会制度、被害者参加制度などについて個々の仕組みと目的を理解する。 ・裁判の報道などに関心を持ち、判決や量刑が妥当かなどについて関心を持たせる。 ・選挙に関心を持ち、18歳になるときを想定して、主権者としての自覚を深める。 ・政党に関心を持ち、各党の政策の違いなどについて調べ、主権者として政治を見ようとしている。 ・日本の若者の政治的関心が低いのか、当事者として問題を捉え、思考している 	○	○		<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
	10	第2章 現代社会の諸課題 5. 国政と地方自治 ①国会と内閣 ②地方自治 6. 国家主権と領土問題 ①国家主権と領土 ②紛争解決のために国際法は有効なのか 7. 安全保障 ①安全保障と防衛 ②21世紀の世界情勢 ③憲法9条と日本の安全保障をどう両立させるか ④「平和」と「安全保障」はどう違うのだろうか	<ul style="list-style-type: none"> ・国会の仕組みや立法手続き、行政組織、三権の均衡など基礎的な知識を習得する。 ・国会と内閣および行政組織の関係を理解したうえで、官僚政治の問題点、政治主導に転換した現在の課題点について思考し表現する。 ・地方自治で住民がもつさまざまな権利、地方自治体が抱えている課題などについて表現する。 ・国家の要件、国家間の紛争解決手段、現在日本が抱えている領土問題などについての知識を習得し、日本と国際社会がどのような関係にあるか、どのような課題があるかを考察する。 ・憲法9条と、自衛隊、日米安全保障条約、集団的自衛権めぐり、さまざまな解釈と裁判があり、こんにちの歴史的経緯を理解している。 ・平和主義という理念と、安全保障という現実のジレンマのなかで思考し、両立させる道を模索しようとしている。 ・テロや紛争、それに伴う難民が国際政治の課題になっていることを理解する。 ・難民問題について関心を持ち、日本政府が取っている政策と、その理由などについて調べ、主体的に考察する意欲がある。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
	11	第2章 現代社会の諸課題 8. 国際社会と日本 ①国際社会と日本 ②憲法前文から考える国際社会の中の日本 ③SDGsと私たちの生活はどう関係しているんだろう	<ul style="list-style-type: none"> ・戦後、日本が国際社会において果たしてきた役割、国連の成立と仕組み、国際社会が目指している目標を理解する。 ・今後、日本が国際社会で果たすべき責任について思考している。 ・SDGsが示している理念と目標を理解している。 ・SDGs達成のための活動事例を調べ、自らも主体的に取り組む自覚を深めている。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査

年次	月	学習項目	学習内容(ねらい)および評価の観点	a	b	c	評価方法
2	11	第2章 現代社会の諸課題 9. 職業選択 ①職業選択 ②AIの進化は仕事をどう変えるか ③都会で働くか、地方で働くか	<ul style="list-style-type: none"> ・日本経済がたどってきた産業構造の変化と、今後の働き方の可能性について学び、自らが働くことの意味や、生活とのバランスについて自覚する。 ・AIの活用によりこれからの社会の変化について展望を持ち、自らに必要とされる能力について思考している。 ・地方から都会への人口流出が継続している理由を分析し、「働く」という観点から地方と都会の双方のメリット、デメリットを理解させ職業選択についての関心を深める。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
	12	第2章 現代社会の諸課題 10. 労働問題 ①雇用と労働 ②労働者の権利 ③メンバーシップ型かジョブ型か 11. 財政と税 ①財政の役割 ②租税の仕組みと国債 ③財政支出削減のため水道を民営化すべきか ④格差是正のために課税すべきか	<ul style="list-style-type: none"> ・経済環境の変化とともに、日本型雇用が限界を迎え、さまざまな改革なされていることを理解している。 ・労働者の権利と、それを守るための法や機関について理解している。 ・実際に起こっている労働問題について自ら調べ労働法がどのように適用されているか知ろうとしている。 ・将来どのような働き方を望むか、主体的に受け止めて思考している。 ・財政の3つの役割についての知識を習得している ・歳入と歳出、予算の種別について理解している。 ・直接税、間接税の仕組みと公平性について知識を習得し、日本の税制の特徴を理解している。 ・公債の種類と特徴についての知識を習得し、日本の財政が抱えている膨大な公債残高について理解する。 ・公営、民営のそれぞれの利点と難点を理解させ、効率性と公益性についての見方・考え方を身につける。 ・格差是正のための課税強化が市場経済にどのようなプラスの効果とマイナスの効果をもたらすのかについて考察する。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
3	1	第2章 現代社会の諸課題 12. 社会保障 ①少子化と社会保障 ②小学校中学校に給食は必要か ③安定した「年金暮らし」は可能か	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の社会保障制度の基本的な枠組みと具体的な仕組みと社会保障制度の維持のために、さまざまな議論があることを理解する。 ・少子高齢化がさらに進む近い将来に、自らが社会保障費の負担者となることを考慮し、この問題を考察する。 ・給食制度の貧困対策としての側面に注目し、制度の是非について検討している。 ・国民年金、厚生年金、個人型確定拠出年金のそれぞれの特徴を理解する。 ・「高負担・高福祉」と「低負担・低福祉」という年金制度についての二つの基本的な考え方を理解する。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
3	1 ~ 2	第2章 現代社会の諸課題 13. 市場経済 ①市場経済の役割と限界 ②コンサートチケットの不正転売は防げるか ③あなたの街に「民泊」は必要か	<ul style="list-style-type: none"> ・需給曲線を読み取り、価格が決定するメカニズムを理解している。 ・市場のメカニズムを阻害する独占や寡占について理解し、これを規制するための法律や仕組みについての知識を習得する。 ・外部経済、外部不経済について理解している。 ・公平性と効率性の二つの観点から、チケットの販売方法について考える。 ・民泊は、貸し手と借り手だけでなく、仲介業者、行政、近隣住民などさまざまな関係者がいることを考慮し、経済活動と社会生活の関わりについて思考する。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査

学期	月	学習項目	学習内容(ねらい)および評価の観点	a	b	c	評価方法
3	2	第2章 現代社会の諸課題 14. 金融 ①金融の働き ②日本銀行と金融政策 ③投資家によって「よい企業」とは 15. 国際経済 ①グローバル化と経済統合 ②格差是正と多文化主義 ③私たちにできる「最善」は何か ④コメは国産にこだわるべきか	<ul style="list-style-type: none"> ・間接・直接金融、証券、預金、信用創造など金融市場の仕組みと、企業の会計情報などの知識を習得する。 ・預金や株式などに関心を持ち、経済主体としての自覚を深めている。 ・株式投資の基本的な構造を、事業者、投資家の視点から理解している。 ・リスクとリターンについて理解し、投機の危険性について理解している。 ・主体的な投資家として企業を見る目線を持ち「良い企業」を見極める方法について思考する。 <ul style="list-style-type: none"> ・世界経済が緊密に結びついたグローバル化現象の姿を理解し、相互依存関係が引き起こす影響を具体的に把握する。 ・地域経済統合がもたらすメリットとデメリットを自由貿易、保護貿易の観点から理解させる。 ・私たちの消費と地球の裏側で起きている貧困問題が繋がっていることを理解させ、フェアトレードの仕組みを確認する。 ・コメに関する政府の農業政策や、世界のコメの需要量などについて調べ、課題を発展させようとしている。 	○			<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
	3	第3章 持続可能な社会へ ①地域社会と共に学ぶ ②バリアフリー社会の実現を目指して ③SDGs 実現のために私たちができること	<p>持続可能な地域、国家、国際社会を担う主体として、社会のなかに課題を見出し、これまで学習してきた公共的な見方・考え方をはたらかせ課題解決にむけて協働して取り組む。</p>	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・レポート作成 ・発表

授業の進め方

- (1)プリントを中心に授業を進めます。次時までプリントつづり用のファイルを準備してください。
- (2)毎時のプリントには復習のためのプリントが添付しています。授業を受けた際には、必ず復習を心がけましょう。
- (3)授業がある日は、その時間の教科書の範囲はなるべく読んでおきましょう。
- (4)章末もしくは節末に小テストを実施する場合があります。

評価の方法：下記の状況と評価の観点に基づいて総合的に判断します。

- (1)定期考査（1学期～2学期の中間・期末テスト及び3学期学年末テスト）
- (2)課題点【課題・復習プリント・小テスト・提出物の提出】

学習上の留意点

- (1)様々なつながりを念頭に、様々な情報【インターネット、TV 等】で世界や社会の動きに、関心を持つようにしましょう。
- (2)様々な資料から得られる情報と授業で学んだ知識を関連付ける姿勢を持ち、問題、仮説を立て、資料に基づいて根拠を示したり、検証したりする姿勢を身に着けるようにしましょう。
- (3)授業を受ける際には、教科書・資料集など読み込むようにしましょう。